



高名なお坊さん(その2)

一遍上人

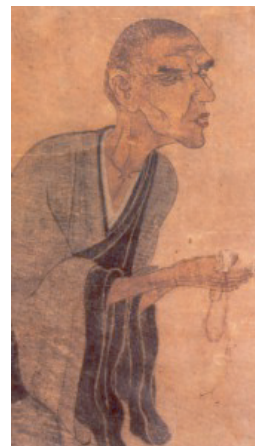
時宗の開祖として崇められている一遍上人は、延応元年(1239)2月15日、伊予の名門武士であった河野家、通廣公の次男として生まれました。

幼名を松寿丸といい、幼くして母を亡くしてしまいますが、父のすすめにより7歳にして同国越智郡の得智山に登り、縁教律師を師として仕え、修行にはげみました。そして15歳のとき、同師について剃髪し、名を随縁と改め、台教(天台宗の教え)を学びます。

18歳のとき、比叡山(延暦寺)に登り慈眼僧正の室に入り、三大部及び密灌をうけます。

22歳のとき、兄通真の死去により、家督相続の争いに巻き込まれ、ますます発心を強くし叡山を出、修行の旅に出ます。

26歳のとき、深く浄土門に帰し、法然上人の弟子として知られた観智上人のもとに赴き七年間修行し、浄土の安心を伝授され名を智真と改めます。



一遍上人



一遍上人像

建治元年(1275)、37歳のとき宇佐八幡宮にて参籠の後霊夢を感じ、回国結願の大願を起こし、南無阿弥陀仏の名の算を作り人々に配り諸国を遊行するになります。

建治2年3月25日、紀伊国熊野本宮の證誠殿において、百日参籠につとめます。その満願の日、熊野権現にまみえ本願の深意、他力の奥旨を悟ります。この時より一遍と名乗り旅に出ます。

弘安2年(1279)、41歳の時、信州佐久郡で踊り念佛を始めます。

その後、正応2年(1289)8月23日、摂津国(兵庫)の観音堂で51年の生涯を終えられます。

南は九州から北は奥羽にいたるまでくまなく遊行し、身命を尽くされた一遍上人は法然上人、親鸞聖人と並び、日本浄土教を確立された名僧として称えられています。



ね。加えまして、ここ数日の冷え込みが厳しいこと。つい先日は、寺の周り、雪が降り積もっていました。明るい話題が少ない昨今ですが、明けぬ夜はありませんから、明るい希望をもつて、共にこの人生を歩んで行きましよう。

住職レター

この写真、元旦の会法要を勤め終えた後、本堂廊下より、初日の出を撮りました。この素晴らしい初日の出を拝みながら、このままコロナ感染症が収束し、今までのような平穏無事な世の中が戻ってくると、確信めいた思いを抱いていたのですが、

昨年の秋から年末にかけて、広島県内では、新規の感染者ゼロが続いていました。正月三が日も穏やかでありましたので、コロナ感染症もついに普通の風邪になったかな?と思いました。が、感染力が強いとされるオミクロン株によって、急激な感染拡大となりました。

オミクロン株は重症化しないと言われてますが、ワクチン接種をしていない子供達への感染が、広島県内でも急増しているようです。

